

大森糍谷支部

1月25日 前の浦集会室 参加36人



参加者みんなでフラダンスを

鵜の木・雪谷支部

1月28日 鵜の木1丁目町会会館 参加40人



新しい年に「乾杯！」

六郷支部

2月7日 仲六郷老人いこいの家 参加44人



大田病院フラダンス部

2012年

各支部で恒例の

新春のつどい

西品川支部

2月4日 豊町1丁目会館 参加55人



ジャグリングに大喝采

豊支部

1月14日 荏原第5区民集会所 参加60人



落語で笑い初め

今年も、新春のつどいが各地域で行われました。どの支部も、組合員と職員が一緒になって準備をすすめてきました。当日は各支部、さまざまな企画で盛り上がりました。

大森糍谷支部は、参加者全員で唱歌や童謡を歌い、輪になって炭坑節を踊りました。六郷支部では、フラダンス、三線、ビンゴ大会を行いました。鵜の木・雪谷支部は、手ゲー

ム、じゃんけんゲームなど二体感のあるつどいとなりました。西品川支部は、マジックショーに職員の寸劇で大いに盛り上がりしました。豊支部では、昨年12月27日に

ゆたかの家で、地域の組合員とゆたか診療所グループの職員との昼食交流会も開催、あわせて57人が参加しました。新春のつどいでは落語やマジックが披露されました。

どの支部も組合員と職員の交流を大いに深めることができました。

かがやき事例

その9

ヘルパーステーションすずらん（平和島）からの報告です。

ターミナルケアから学んだこと

急遽ターミナルケア（身体・精神両面の終末期ケア）で退院となり、事前のカンファレンス（患者の情報交換と話し合いにより方針を決める場）ができずに、自宅でのケアが開始になった方の事例です。

本人の想いを聴くところから

医師による往診や訪問看護の医療がはじまらない中で、すずらんとして保清（清潔を保つ身体介護）を行うことになりました。当初は情報がない状況でしたので、会話をしながら、本人の状態を観察し、想いを聴くことから行ってみました。

お話を聴く中から、お祭りが大好きで、人との関わりをとても大切にされてきた方だということがわかりました。身体状況は、ベッドで左側を向くと呼吸が苦しくなり、常に右側を向いている方が楽な様子でした。また、便が堅く出きらずに腹痛もありました。

腹部の緩和や会話を通し、本人の苦痛を緩和する工夫を、ヘルパー同士で何度も話し合い、検討を重ねましたが、日に日に食事や水分量が少なくなり、排尿の量も減り血尿が出はじめました。

シャンプーが幸せ・本人の気持ちを尊重

往診が開始になり、エンシュア処方（人工栄養補給）が行われ、エアーマットも導入されました。訪問看護も開始となり、排便となることで、本人の苦痛となっていた腹痛・便が堅く出きらないことなどが改善されました。

病状の進行から、会話がほとんどできない状態になりましたが、小さな声で「シャンプーをしてもらっているときに幸せ」と言ってくださった表情が忘れられません。

手で会話するケアを学ぶ

その後、尿路感染の疑いがあることから、ヘルパーの訪問回数を増やしてほしいと依頼がありました。夕方の訪問時には胸が苦しく病院に行きたい」との訴えがあり、往診に連絡をとったところ「ご家族がどこで看取りたいか？」という回答を出さなければならぬ状況になりました。本人の気持ちを尊重し、相談のもと救急搬送となり、2日後に病院で永眠されました。病状の進行が早く、日に日に本人からの言葉は少なくなっていました。呼吸の速度や表情などを観察し、ケアを行い

ました。声を出すのが苦痛な中「さっぱりした」と笑顔を見せてくれたAさんの表情に涙がこみ上げ、同時に「手で会話をする」ケアを学ぶことができました。

関わりを大切に

今回、ヘルパー同士で話し合いを行う中からケアをすすめてきましたが、Aさんの状態の変化にヘルパー自身の不安があったことも事実であり、Aさんの気持ちにしっかりと寄り添い満足されたのだろうか？というところでは課題となりました。今後ヘルパー同士の共有の場を増やし、終末期を迎える方によりよいケアを提供できるよう、日々の関わりを大切に励んでいきます。

介護ホットラインのご案内

城南保健生協には5カ所の訪問介護事業所（ヘルパーステーション）があります。介護についてのご相談はお気軽に連絡をください。
☎ 3762-0106 すずらん（平和島）

